

令和7年度

国内研修報告書

@ 横浜

札幌市PTA協議会 国内研修団



国内研修団研修行程

12/1(1日目)	12/2(2日目)
8:00 新千歳空港集合	
8:50 新千歳空港出発	
10:30 羽田空港到着	
13:30 横浜市立白幡小学校	9:30 横浜市立港南台第一中学校
15:30 横浜市PTA連絡協議会 (青少年育成センター)	13:00 横浜中華街(昼食)
18:30 情報交換会(横浜中華街)	16:55 羽田空港出発 18:35 新千歳空港到着 解散



研修の目的・ねらい

国内研修は、各区のPTA会員の代表者を、意欲的にPTA活動を進めている都市やPTA活動とかかわりの深い先進的な事業を推進している都市に派遣し、その実地調査を行うとともに、代表者相互の意見交流を通じ、新たな活動展開を模索し、PTA活動の向上を目指すものです。

今年度は以下の2点を重点項目として挙げ、該当する団体へ訪問することとしました。

- ①地域と学校・保護者の連携が進んでいて、PTA活動にもプラスになっている学校や地域の取組について研修する。
- ②PTA役員のなり手不足解消に向けて工夫・対応している学校や、地域人材を活用したPTA活動の事例について研修する。

役割分担表

役 割	市・区	氏 名(◎班長)	役 割 内 容
同行役員	市P協	千葉 香織	対外的な代表あいさつ
団長	南区	青山 英樹	訪問先へのあいさつ
副団長	中央区	帆足 正太郎	団長の補佐
研修班	北区	◎安達 里香	研修計画の立案
	東区	八乙女 伸江	研修記録のまとめ
	厚別区	谷内 政昭	研修報告書の作成
総務班	西区 白石区 手稲区	◎相馬 尊 六角 晴香 細川 和彦	宿泊・航空券の手配 訪問先手土産の準備
会計班	豊平区 清田区	◎小田川 真実 小林 遥香	予算書、決算書の作成 研修経費の管理
引率	清田区	高谷 義仁	連絡、涉外 引率責任者



団長あいさつ

令和7年度札幌市PTA協議会国内研修団は、政令指定都市の中から横浜市PTA連絡協議会を研修地に選定し訪問いたしました。ここ最近PTA活動を取り巻く社会環境が大きく変化し、少子化の進行、共働き世帯の増加、保護者の価値観の多様化などにより、全国的にPTA活動が転換期を迎えていました。その中においても横浜市PTA連絡協議会は先進的な取組を進めており、その実践事例から学び、今後の札幌市PTA協議会の活動に活かすことを目的に訪問させていただきました。

今回は、一泊二日の日程のため訪問先の学校を2校に絞り、横浜市立白幡小学校と横浜市立港南台第一中学校を訪問し各校のPTA役員や校長、地域活動リーダーの皆様と、活動内容について意見交換をおこないました。横浜市立荏原小学校の事例については、横浜市PTA連絡協議会との意見交流の際に実例報告として前PTA会長からご説明をいただきました。

研修行程は、横浜市PTA連絡協議会の副会長高杉様にご同行いただき、訪問校や同協議会の組織体制や運営方針、近年の重点的な取組について丁寧にお話ししていただきました。特に、PTAの任意加入を前提とした透明性の高い運営や、活動内容の整理・精査を通じた保護者負担の軽減に向けた考え方は、大変示唆に富む内容でした。「子どもたちの健やかな成長を支えるために何が必要か」という原点に立ち返り、単に活動を削減するのではなく事業の目的と責任の所在を明確にしたうえで取組を進めていくことは、今後の札幌市PTA協議会の運営においても重要な視点だと感じました。

意見交換の場では、札幌市におけるPTA活動の課題についても率直に意見を交わすことができ、都市規模や地域性の違いはあるものの、役員のなり手不足や活動への理解促進、保護者の参加意識の向上といった課題は共通しており、全国的な課題であることを再認識しました。

本研修を通じて得られた知見は、直ちにすべてを札幌市の取組に反映できるものではないですが、考え方や方向性、課題への向き合い方は、今後の札幌市PTA協議会の活動を検討するうえで、大きな指針となるものでした。今後は、本研修の成果を会員間で共有し、札幌市の実情や地域特性を踏まえながら、より参加しやすく、持続可能なPTA運営の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

本研修の実施にあたり、ご多用の中にもかかわらず、貴重な時間と多くの示唆を賜った横浜市PTA連絡協議会の皆様に、心より感謝申し上げます。

研修会議日程

研修会議	日程	場所	内容
第1回	7/8(火)	ちえりあ研修室	概要説明、役割分担決定
第2回	8/8(金)	ちえりあ研修室	研修日程と研修地の検討
第3回	9/1(月)	ちえりあ研修室	研修日程と研修地の決定、研修内容の検討
第4回	9/22(月)	ちえりあ研修室	研修内容の検討
第5回	10/31(金)	ちえりあ研修室	研修先(小学校、中学校)の決定
第6回	11/25(火)	ちえりあ活動室	市P協担当役員交代のため顔合わせ、最終確認
研修日	12/1(月)~12/2(火)	研修地:横浜市	
第7回	2/2(月)	ちえりあ研修室	報告書の確認

横浜市立白幡小学校～役割を超えて支え合う、学校・地域・PTAの理想像～

横浜市立白幡小学校を訪問し、PTA役員、地域コーディネーターの方からお話を伺いました。

地域と温かく結びつく学校文化

横浜市立白幡小学校は、学校・PTA・地域住民が自然に協働し、子どもたちを支える文化が根付いている学校でした。革新的な制度を導入するよりも、今まで築いてきた仕組みや活動を大切にし、それらを未来につなぐ姿勢を重視しているように感じました。この積み重ねの文化が、学校と地域、保護者、教員との信頼関係を強めているようです。日々の活動の中で、学校が地域の拠点となり、子どもたちが多くの大目に見守られながら育つ環境が形成されています。

登下校時の安全確保では、朝は保護者が学援隊として交代で見送るほか、踏切や危険箇所のある地域では地域住民が夕方も横断歩道に立ち、子どもたちの下校を見守っています。10年以上継続する住民もあり、保護者だけに依存せず、多世代が役割を分担しながら子どもを守る文化が定着しています。

学校後援会「いちょうの会」による多面的な学校支援

白幡小学校の取組の中で、特に特徴的なのがPTAの限界を補完する後援会である「いちょうの会」の存在です。「いちょうの会」は元PTA役員等で構成され、学校と子どもたちの生活を多方面から支えています。朝の校門で子ども一人ひとりに声をかけ、表情の変化に気づけばフォローするなど、細やかな見守り活動が日常的に行われています。また、学校行事の演出や装飾、音響、ライトアップなど、学校生活を彩る取組も後援会が中心となって担っています。

さらに、PTA予算では出しにくい慶弔費や手土産、学校への細かな支援など、柔軟性のある対応が可能であり、学校側が必要としている細やかな支援をタイムリーに行える点が大きな強みです。後援会メンバーの多くは地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の資格を取得しており、学校・地域・行政をつなぐ調整役としても高い専門性を備えています。

地域資源を活かした教育支援

「いちょうの会」は学校と地域をつなぐ役割を担い、地域の専門性を教育活動に還元しています。年間20回の土曜塾では、大学生や英語に強い地域住民が学習支援を行い、読み書き・計算・英語など多様な学びを提供しています。教員も当番制で見守りに協力し、学校と地域が役割を分担することで負担を一定に抑えながら継続的な学習支援が成立しています。

また、1年生の希望者を対象に、学校の隣にあるテニススクールで、無償でスクールの受講ができる体力向上プログラムを実施しています。サマースクールでは、カヌー教室や水泳指導など、専門家を招いた活動が行われ、学校教育の枠を超えた多様な体験が可能になっています。

活動自立化と継続性

白幡小学校では、活動をPTAが抱え続けるのではなく、学校と地域が直接連携し、自立的に運営できる形に移行しています。代表的な例がブックボランティア「くるみの会」です。もともとはPTAの図書委員会が担っていましたが、活動が“図書好き同士の活動”に閉じてしまったことから同好会形式に再編し、地域にも参加を広げました。現在は全25クラスで毎月読み聞かせを実施し、読んだ本や子どもの反応を6年間継続して記録しています。活動は学校と地域ボランティアが直接調整する形に移行し、PTA役員が交代しても継続できる仕組みが確立されました。





青山 白幡小学校は、教師と保護者と地域の結びつきが強く理想的なモデルケースのように感じられました。教師と保護者の役割を明確にして、それをサポートする地域の7項目に及ぶ運営協議会を中心に子どもたちへの結びつきと地域愛の深さを感じました。地域の会を代表する横田さまの「責任を明確にする」事は、今後の札幌市PTAの活動にも必要な事だと思います。

安達 札幌にもスクールゾーン実行委員会はありますが、白幡小学校との大きな違いは、参加者(保護者・学校・地域)の一体感。今から新しい組織を作り上げる必要なんかない、今ある組織で、みんなが同じ方向を向いて、みんなで頑張ろう、みんなで見守ろうという心のつながりこそが大切なんだなあと感じました。

小田川 白幡小学校古き良き時代というのは言い過ぎかもですが地域との関係性がとてもすばらしいのはみんなで子どもを育てるという意識の高さが代々引き継がれているのだからなのだろうと感じました。親世代と子世代の間で生まれる”ありがとう”を自身の周りにも広げていけたらと感じました。

高谷 中屋敷PTA会長の「白幡小学校はすごく幸せな学校」の言葉通りに、PTAと学校、地域がとてもうまくつながった活動をしていました。地域人材にも恵まれていますが、今まで繋いできたものの歴史的な意義を大切にする取組が持続可能な大きな要因だと思いました。

六角 “白幡小学校は幸せな学校だと思います”“PTA活動は保護者の大切な権利であって、義務ではない”素敵なワードが次々と出てくる白幡小学校。地域との繋がりを大切にし、強い信頼関係のもと、子どもたちを見守る姿勢はとても素晴らしいです。地域での繋がりが弱い札幌でも、是非活かせればと思いました。

谷内 学校は、地域・保護者・学校が一体となって作り上げていくもの、三者ともそれを共通認識として学校づくりを行っていると強く感じました。それぞれが、やれることとやるべきことを明確にします。横田さんがおっしゃっていた「責任を明確にする」という言葉は当たり前のようにでいてなかなかできない、PTA活動の基本となる言葉だと思いました。

相馬 白幡小学校は、我々の視察目的である「地域と繋がる小学校」として紹介いただいた学校です。今まで繋いできたものを壊さない事を強みに、元会長で現後援会会長と協力することで学校の歴史や活動背景を実感と共に継承することが出来ており、現会長の「この学校は幸せな学校です」とおっしゃっていたのが印象的でした。

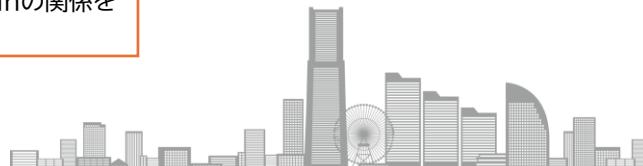
小林 白幡小学校の取組は、学校・地域・保護者がそれぞれの立場を尊重しながら自然に協力し合う、とても温かなつながりに満ちていると感じました。安全や学習支援だけでなく、「子どもたちのために何ができるか」を皆が主体的に考え、実行している姿勢に大きな学びを得ました。今回の研修で感じたことを自分の地域でも活かしていきたいと思います。

細川 地域との心の通った連携がこれからPTAには無くてはならない要素だと痛感しました。いかに地域を巻き込んでいくか、いかに地域に巻き込まれていくか、WinWinの関係を構築することが双方にとって生きる道になると感じました。

千葉 白幡小学校のPTAの皆さん、横田さん含む地域の方々、校長先生始めとする学校との強い絆や取組をお聞きし、今後の単位PTAや区PTAでの関わりの参考となるお話をたくさんありました。参考にさせていただき、ぜひ子どもたちも関わっている大人もみんなが「幸せな時間が共有」出来るように携わっていただけたらと思いました。懇切丁寧なご対応本当に感謝します。札幌市PTA協議会国内研修団に関わって下さった皆様ありがとうございました。

帆足 現PTA会長(事務局)、地域、学校を元PTA会長が組織する後援会が間に入り、とても連携がとれているなと思いました。現事務局では困難なことがあっても後援会が支え、地域とのパイプ役になり、子ども達を見守っているところが素晴らしいと思いました。単PのPTA活動としては理想の形だと感じました。このような仕組みだと事務局やPTA会長の後任者も活動に関わりやすく、楽しい活動になりそうだと思いました。コロナ後、受け継がれていない部分が単Pの課題に感じていたので。

八乙女 PTA、地域、先生の連携がしっかりとれた、理想的な活動がおこなわれていました。学援隊という交通安全指導のような活動が行われていましたが、当番や役割はなく、あくまでも地域の方の自主的なボランティア活動で、子どもを地域ぐるみで育てているという感じがしました。このような活動の支えには長年にわたりPTA活動をあたたかく見守る元PTA会長さんが繋いできたものも大きいなと感じました。



横浜市立荏田小学校～崖っぷちからの挑戦－楽しむことで変わるPTA～

横浜市PTA連絡協議会にて、前荏田小学校PTA会長の中川氏よりお話を伺いました。

荏田小学校PTAの改革と考え方

荏田小学校PTAは昨年度日Pの年次表彰を受けたPTAです。

前会長の中川氏は会長不在の状態から「解散を前提に名義を貸す形で会長に就任した」とのことですが、活動を進める中でPTAの価値を再発見し、積極的な改革につながったという点が特徴的でした。

本部役員の皆さんにはまず、「やりたいこと」と「やりたくないこと」を丁寧に整理しました。子どもたちの思い出づくりや学校への理解促進は前向きに進めたい一方で、スクールゾーン協議会の主体運営や旗振りなど、負担が偏る活動は見直しました。活動の優先順位を明確にし、「PTA活動は自分たちで再設計してよいもの」という意識が共有されていったそうです。

スクラップ&ビルトの実践

荏田小学校PTAは、負担が大きかった「スクールゾーン協議会」を、本部役員の仕事から外す決定をしました。これには単なる軽減策ではなく、「通学路の安全はPTA役員だけが背負うものではなく、地域や保護者も責任を持つべき」という考え方を共有したい意図がありました。地域から反発もあったものの、相談ではなく「PTAとして決めたこと」として伝え、役員を守る姿勢を大切にしたということでした。

その一方で、何かをやめて終わらせるのではなく、新しい見守り体制「学援隊」を立ち上げ、地域企業にも協力を依頼し、立ち上げ当初から10社以上がスポンサーとなったとのことです。保護者中心の見守りから、地域全体の見守りへ発展させた先進的な取組です。

活動の透明化と共感づくり

荏田小学校PTAでは、夏祭り、工作教室、ハロウィン、餅つき、どんと焼きなど、さまざまなイベントを実施しました。特に印象的だったのは、行事そのものよりも「見せ方」や「保護者が関わりやすい仕組み」を大切にしている点です。夏祭り後には、いただいたアンケートを称賛も批判も一切編集せず、すべて公開しました。透明性の高い姿勢が信頼につながるとともに、「批判も公開する」ことで、他の保護者がPTAを応援する動きが生まれたということです。

ボランティア参加を高める仕掛け

餅つきイベントでは、従来の募集方法では人が集まらず、全児童への実施が難しい状況となりました。そこで、「集まったボランティア人数に応じて餅つきできる学年が増える」という仕組みを取り入れました。また「衛生管理上、登録していない保護者は会場に入れない」と告知し、参加の主体性を促しました。その結果、50名以上のボランティアが集まり、全学年での実施に至ったということです。

「保護者は自分の子どもの利益になる場合には積極的になる」という視点を重要視し、ボランティア方式で事業を運営していました。

新しいPTAデザイン

「学援隊」の企業スポンサーは3年間で22社に増えたとのことです。タグラグビー授業にプロ選手を招いたり、無料の生理用品設置、イベント協力など、学校・地域・企業が協働する取組が実現しています。PTAを「資産を預かる団体」と捉え、保護者や企業と対等な関係を築いています。

荏田小学校PTAの取組は、単なるイベント成功ではなく、「役員負担を減らしつつ、学校と地域の価値を高める“PTAデザイン”」であると受け止めました。保護者の支持を得るために活動量も大切ですが、それよりも透明性や参加設計、意思決定の整理が大切であることが分かりました。





千葉 中川さんの話は、とても興味深いものでした。中川さんが会長になった時はPTAをやめる流れだったので中川さんはじめ当時の荏田小学校のPTA役員の方々で、今何が課題となっているのかをみんなで話し合い、共通目標を持ちPTA活動を続けていく決断をしたところがすごいと思いました。なかなかできる事ではないと思いました。また頭に残っている言葉がPTAは「資産運用管理団体」という言葉です。確かに、PTAに加入していただいている皆様の会費でPTA活動を運営しているので、その言葉はすごく心に刺さりました。意識していかなくてはならない点だと気づかされました。また地域、学校との関わり方がビジネスに通じる手法で、とても参考になりました。中川さん、本当に貴重なお話や資料ありがとうございました。

帆足 企業スポンサーという取組が面白く感じました。また、業務を切り分けながら進めていく会社組織のような事務局作りの話も面白く聞かせて頂くことができました。PTAを解散するというところからスタートしたのが思い切った行動ができたのかなとも感じています。会社経営として見ると考えていることに共感できるのですが、PTAとしてそこまで思い切った行動ができるのかというと私の地域では厳しいように感じました。ただ、中川さんから頂いた楽しむというワードは大切なことだと思います。

青山 莖田小学校のPTAを解散する崖っぷちからの復活は、中川会長の卓越した経営手腕が素晴らしいと存続の強みを活かした企業改革とも言える革新的な取組でした。PTA役員の地位向上とPTA組織の付加価値の向上、そして地域での企業スポンサー22社は、新たなPTAのあり方を考える貴重な機会となりました。

小田川 莖田小のマーケティングは近い将来どこの学校でも起こり得る話で固定観念の払拭が鍵となり、子どもたちの社会勉強の場になるのではないかと個人的には大変勉強になりました。

八乙女 PTAはやりたい人が入会、やりたいこと、やりたくないことを明確にして保護者が「PTA活動をしてみたい」、「PTA活動をした方が良い」と思えるような活動が行われていて、PTA会員でない人も結局は“PTA活動に参加していました”というようなエピソードや企業なども巻き込んだ新しい取組などからも周りを良い意味で巻き込む工夫や魅力を感じられとても参考になりました。

細川 外部の力を活用する。旧態依然・前例踏襲の凝り固まった組織からの脱却。攻めることが最大の防御。沢山学ばせていただきました。

六角 “PTA会長の名前だけ貸してほしい”と解散前提でスタートしたPTA活動。そんな事を微塵も感じさせないような中川会長の発想と行動力は、目から鱗が落ちるような着眼点でとても刺激されました。簡単に真似できることではないけれど、PTAへのイメージが変わる大変貴重なお話で、札幌でも是非広げていきたいと感じました。

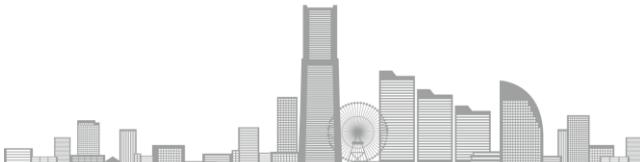
安達 企業スポンサーを集めるのは札幌では難しいと感じました。必要なことだけをやるという改革自体は札幌でも進めているところが多くなっています。その地域の特性に合ったPTA活動へとシフトチェンジしていく一例として、札幌では聞いたことのない事例を知れてよかったです。

小林 莖田小学校のPTA改革の事例から、ただ活動を減らすのではなく「何のために、誰のために行うのか」を明確にしながら、負担軽減と主体的な参加を両立させる姿勢が強く伝わってきました。スクラップアンドビルトの考え方や、地域企業との連携、新しい見守り体制の構築など、現状に疑問を持ちつつも必ず代替案を示す取組はとても印象的でした。また、子どもたちの学びや思い出づくりを中心に据えながら、透明性を高め、保護者の意識を前向きに変えていくプロセスにも大きな学びがありました。今回の事例を通して、PTAの可能性と地域と共に成長する姿勢の大切さを改めて感じました。

相馬 当初、解散させる為に入ったPTA活動に楽しみを見出し、継続する為に様々な改革を行ったことは「活動を知ってもらう」ことの意義を大きく感じました。改革はスクラップ&ビルトを徹底し、「やめる」だけの選択をしない代案を考えるという姿勢が、数々の魅力的な活動を生み出した一番重要な部分だと感じました。

谷内 「PTAとは何なのか」「自分たちが楽しむためには」「参加することもたまに楽しんでもらうには」「参加する大人たちを増やすには」それを枠にとらわれず、常に考え方行動したそのエネルギーに圧倒されました。参加者を増やし、透明性を高めることでPTAを応援してくれる人を増やす。理想的なPTA活動だと思います。

高谷 「たかがPTA、されどPTA」の言葉どおり、やり方でどちらにもなり得るのだと思いました。「スクラップ&ビルト」「チャレンジ」「あえて…」の言葉が印象的で、保護者として大人として最大限楽しむことが大事だと改めて感じました。中川前会長が言うように「学校でしかできないことはPTA」なのだと思います。



横浜市PTA連絡協議会～事業づくりと組織運営の両立に学ぶ～

横浜市PTA連絡協議会にて、会長松本氏よりお話を伺いました。

横浜市P連概要

横浜市のPTAは、市立小・中・高等学校、特別支援学校を含む約500校で構成されています。横浜市では札幌市とは異なり単位PTAが直接市P連に加入する仕組みとなっており、会費も単位PTAから直接納められています。そのため、市P連と区P連がそれぞれ独立した活動を行っています。札幌市のように区P連が主要事業を担う構造とは異なり、組織の成り立ち自体が大きく異なっていました。

市P連の中心事業「親子写生大会」

横浜市P連の代表的な取組は、毎年4月頃に山下公園で開催される「親子写生大会」です。参加者は約7,000人に達し、横浜市P連最大の事業となっています。親子が自由に絵を描き、ピクニック気分で参加できるイベントで、当日は中学校図画工作研究会の先生方が作品を講評してくれるそうです。この講評が子どもたちにとって大きな励みとなっているようです。

今年度からは「バーチャル展覧会」を導入し、作品をデジタルデータとして取り込み、オンラインで公開する仕組みを始めました。準備には多くの手間がかかったそうですが、オンライン化により閲覧者が増え、より多くの人に作品を届けることが可能となっています。また、展覧会ではプロスポーツチームが協賛し独自賞の提供等も行い、イベントを支えています。

外部イベントへの積極後援とインクルーシブの姿勢

横浜市P連では、自主開催事業にこだわらず、外部団体が主催する子ども向けイベントにも「後援」という形で積極的に関わっています。例えば、日本ランニング協会主催の「小学生向け走り方教室」を後援し、参加者は子ども約350人、大人を含めると約1,000人に達したそうです。横浜市P連の役割は主に情報提供であり、運営実務や費用負担は発生しないとのことでした。マンパワーを抱え込まず、外部と協働しながら子どもたちへの機会を広げていました。

特に印象深かったのは、後援するイベントに「車いすの方が事前連絡なしで参加できる体制を整えること」を条件として求めた点です。特別支援学校部会が横浜市P連にあるため、インクルーシブな環境整備は譲れない要件にしていました。主催団体は1週間ほどの準備を要したそうですが、結果的に誰もが参加しやすい場づくりにつながりました。

全国組織（日本PTA）からの退会プロセス

横浜市P連は2025年3月末をもって、日本PTA全国協議会（日P）から退会しました。今回の研修では、その経緯についてお話を伺いました。

横浜市P連では、日Pの不祥事について、改善姿勢が見られず、会員から集めた会費の一部が裁判費用等に充てられている状況等について、会員へ説明責任が果たせないことが強い問題意識になったとのことです。退会後は、事務局業務が大幅に軽減され、会費も引き下げられたとのことです。

日Pを退会することで、日P全国大会には参加できず、他地域との交流の機会が減少する可能性があります。しかし、政令指定都市では、毎年、指定都市情報交換会を行っています。これは日Pとは関連がないため、これまで通り政令指定都市間の情報交換が行えているということで、退会のデメリットはほぼ無いというお話をでした。

退会にあたっては、保護者と教員の温度差が課題になる場面もあったようで、合意形成に細心の注意を払ったとのことです。校長会への直接説明や会員向けのオンライン説明会を複数回実施し、理解を深めていったそうです。最終的に臨時総会を開き、退会することが決定しました。





青山 運営体制が札幌市と違い、横浜市P連の事業に横浜18区の区Pが参加する方式のため、札幌市のように各区Pの独自色が出ない反面、横浜市P連の運営能力の高さを感じました。日P退会についてもメリットが多く主な退会理由の「会員への説明責任が果たせない事」は、説得力があり共感する点が多くありました。

千葉 横浜市PTA連絡協議会の皆さん、お忙しい中札幌市PTA協議会国内研修団のご対応をしていただき、大変感謝しております。ありがとうございました。また、日本PTA全国協議会からの退会について、退会しての現状について詳しくお話しいただきありがとうございました。個人的には日P退会の経緯、メリット、デメリットなどについて伺ったかったので大変参考になりました。また、横浜市PTA連絡協議会の活動も参考になりました。札幌市PTA協議会でも実現できそうなイベントがありましたので、是非参考にさせていただき開催できるように努力してまいりたいと思います。

小田川 市P連の方々の仲の良さは活動の賜物だと感じ自身も楽しくがモットーだったと改めて気付かされました。日P退会の話は大変ためになり退会しても組織として成り立たせるのは一人一人の意識なんだろうなと考えさせられました。

細川 “子どもたちのため”はもちろんのこと、PTAに関わる保護者達もまた楽しみ学ばなければ、PTAそのものの存在価値を失うという基本的なことに気づかせていただきました。

谷内 市P単位で大規模なイベントを実施するというのは札幌ではなく、市Pだからこそ実現できる取組に力を注いでいる点が印象的でした。また、日P退会に至った経緯を伺う中でも、「PTAの存在意義」を常に問い合わせながら活動してきた結果であると感じました。

帆足 横浜市Pでは市Pとしての独自の取組がおこなわれているということを知ることができました。山下公園での写生大会をはじめ市Pとして大勢の子どもたちが参加できる行事等があり参考になりました。区Pの活動しか見ていなかったので市Pでイベントをおこなっている市Pの取組が素晴らしいと思いました。また、PTA入会届の件も含めPTAがなくなっている単Pがあること、区Pに入っていない単Pがあること、日P退会の流れなどを聞くことができ、貴重な時間を有することができました。

小林 横浜市PTA連絡協議会の取組から、長い歴史をもつ大規模イベントを大切にしながらも、バーチャル展示の導入や外部団体との連携、さらにはインクルーシブな参加体制の推進など、新しい価値を積極的に取り入れている姿勢がとても印象的でした。また、全国組織退会という大きな判断に至る過程では、丁寧な説明と合意形成を重ね、組織として「何が本当に正しいのか」を真摯に考え抜いた姿勢にも大きな学びを得ました。今回の事例を通して、変化を恐れず時代に合わせて進化していくPTAの在り方の重要性を強く感じました。

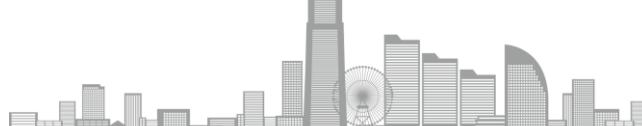
六角 一番興味を惹かれたのは、山下公園での写生大会&バーチャル展示会。7000人の親子が参加して山下公園の好きな場所で写生をする取組。しかも今年は、全作品のバーチャル展示会を開催。話を聞いているだけでワクワクてきて、札幌でもやってみたい♪と感じました。新たな取組を得ることができた、貴重な時間となりました。

安達 札幌の10区に対して18区もある横浜市は運営が大変なのではないかと思っていたが、そもそも単Pの加入方法や組織の構造が札幌市とは異なるため全く別物で、自治体の規模に合わせたPTA活動が必要だと気づきました。札幌市もまだまだ改革の余地アリ、ですね。

相馬 横浜市PTA連絡協議会の事業「親子写生大会」、参加者7000人という大規模な事業であるということも素晴らしいと思いましたが、横浜市の图画工作研究会に在籍する沢山の教員が参加し講評してくれるというPとTの協力体制がとても素晴らしいと思いました。また、展覧会をバーチャルで行う等、先進的なアイデアも参考になりました。

八乙女 横浜市PTA連絡協議会では「親子写生大会」を山下公園で開催されているということでしたが、今年度から作品をデジタル化してオンラインでの公開も行ったということでした。現場に行けない方も作品が見ることができるので現代に即した取組だと感じました。また、外部イベントにも「後援」というかたちで積極的に取り組んでいることもこれからPTAを考えていくうえでとても参考になりました。

高谷 横浜市P連は、単P約500校が直接所属し会費を納める形の大規模な組織で、主催イベントでの工夫や配慮(写生大会のその場での講評、バーチャル展覧会、また、表彰の協賛依頼や車いすの方の参加も考慮など)は大変参考になりました。また日Pからの退会についても直接、経緯やその後の状況などを聞くことができました。



港南台第一中学校～「やりたい人がやる」から始まるPTA運営～

横浜市立港南台第一中学校を訪問し、当日行われていた役員会を見学させていただきました。

当日は校長先生、副校長先生、PTA役員の方々をお話を伺いました。

PTAの入会形態

現在、札幌市内のPTAでは入会時に入会届を提出するPTAが少しずつ出てきていますが、横浜市も同様の状況で、現在、入会届を提出するPTAは少ないようです。

そんな中、港南台第一中学校では、約10年前から入会届を提出する方式をとっています。入会届は1年生時のみの提出ではなく、毎年入会届を提出する仕組みを取っているとのことです。これは、保護者が改めて入会意思を示すことで、PTAが任意加入であることを明確にするという意図があるとのことでした。事務の手間は増えるものの、保護者の理解促進により、活動への関心向上につながっていると伺いました。

港南台第一中学校ではPTA未加入世帯が約1割程度とのことです。未加入が一定数存在しても運営に支障が出ていない様子がうかがえました。また、経済状況が厳しい家庭もあり、背景の多様性を踏まえた配慮が求められることがあります。運営にあたっては、会費徴収や加入促進を一律には進めず、地域事情や家庭状況を理解しながら活動していました。

PTAの組織運営

委員会は学年委員会と環境委員会が設置されており、広報委員会については活動希望者がいない年には発足しなかったことがあるとのことです。「やりたい人がいれば活動し、いなければ活動しない」という柔軟な構成は、従来の年間固定型の委員会とは異なる印象でした。無理に委員会を立ち上げず、必要に応じて運営形態を変えることで、保護者の負担を抑えながら活動を継続しているようです。

役員選出に関しては、どのPTAでも課題となることが多いですが、港南台第一中学校PTAでは役員のなり手が比較的スムーズに決まるとのことでした。

市内では役員経験者に対して「卒業式の最前列席を確保できる」などの特典を付与する学校も多いようで、役員受諾への心理的抵抗を下げる工夫として取り入れられています。

制度よりも、日頃から築かれている学校・地域・保護者間の信頼関係が活動の基盤となっているようです。

いじめ防止対策

当日は港南台第一中学校が策定を検討しているいじめ防止基本方針についての意見交換が行われました。過去に横浜市内で発生した重大事案を契機に、いじめ防止対策に非常に強い関心をもって取り組んでいるとのことでした。

いじめの捉え方についても変化があるとの説明があり、学校側としては「いじめの認知のハードルは以前より下がっており、小さな困りごともいじめと捉える傾向が強くなっている」とのことでした。企業がハラスマント研修を通して危険事例を理解するのと同様に、子どもにも「どの行為がいじめに当たるか」を具体的に示すことが重要である、とのお話もありました。

同校では、いじめ防止において家庭教育の重要性を強調していました。家庭に何らかの課題がある場合、子どもが問題を抱えやすいケースがあるということです。子どもが困りごとを抱えた際、保護者に安心して相談できる関係性が必要であり、さらに保護者が学校に声を届けられる関係性も大切とのことでした。「学校へ伝えると大ごとになってしまうのでは」と考える家庭もあるため、大小さまざまな窓口があると声が上がりやすいという意見がありました。なお、札幌市における取組として、シャボテンログを紹介し情報共有させていただきました。





高谷 PTA役員と校長・副校長の8名での役員会、忌憚のない意見交流があり、普段からの学校とPTAの関係が築かれていると思いました。中学校は随分前からPTAの加入届を提出してもらっているが、加入率が約9割であることの理由が垣間見れた感じがしました。

千葉 港南台第一中学校のPTAの皆さん、校長先生、副校長先生、札幌市PTA協議会国内研修団にお忙しい中ご対応いただき、貴重な役員会に参加させていただきありがとうございました。大変有意義な意見交換もできてとても参考になりました。また、いじめ問題やPTA加入未加入問題など住んでいるところは違えど、悩みは同じなんだという事が分かりました。また、それらに対する考え方や対応も苦慮しているところも同じで、役員皆さんのお話を聞いてとても参考になりました。本当にありがとうございました。

帆足 今、話題の入会届に関してお話や考え方を聞くことが出来てとても参考になりました。無理に組織の形を作ろうとせず、やりたい人がいたらやる、いなければやらないという考え方を聞いて、このような考え方をしても良いのだなと感じました。事務局は佐藤会長の人柄で集まってきて、課題を校長、副校長、事務局で話し合いをしている姿も斬新でした。今後の入会届の件や加入が減っていく地区が出てくる可能性がある中で自分達が出来ることを楽しく活動していく姿が参考になりました。

青山 港南台第一中学校PTAの、取り組む事を作ってから人を集めのではなく、やりたい人がいればやる、いなければやらない考えは、年度により発会しない委員会があつても仕方ないとの強気の組織運営は逆転の発想でした。役員経験者への特典の付与やいじめ問題についての考え方や対策も、とても参考になりました。

小田川 役員会での題材や意見は場所が違っても同じような悩みや解決策を話し合って最善策を見出だしているのだと実感し嬉しく思いました。親も子もよりよく活動できるように工夫している姿勢はとても参考になりました。貴重な役員会のお時間を共に過ごせたこと誇りに思います。

谷内 役員会に参加させていただき、PTA役員の皆さんと先生の関係性が築かれていると思いました。そのベースとなるのがしっかりと自分たちの意見を伝え、相手の話を受け入れること。時間をかけて信頼関係を築いたからこそ言いたいことが言いえるのだと感じました。

細川 “Association”のお手本を見せていただいた気がします。また、「やる・やらない」を潔く割り切って実行している姿がとても刺激的でした。

六角 先生と役員さんの関係性がとても魅力的な学校。お互い言いたいことが言い合える関係性で、聞いたことに対して真摯に向き合って取り組もうとしている姿は本当に素晴らしいです。毎年確認をするPTA入会届、やりたい人がいない委員会はやらない！というはっきりとしたスタンス。参考になるおばかりで、とても為になりました。

安達 委員会活動のボランティア化は札幌でも進んでいます。いじめ対策も札幌のほうが進んでいるのかもしれませんと感じました。PTA入会届を早い段階できちんと取り扱ってきたのは素晴らしいと思いました。任意加入団体なのでPTA非加入者がいてももちろん良い。PTAが何をやっているのかきちんとPRできているPTAなら非加入者が増えることにはならないと思います。札幌市Pは入会届を恐れすぎているし、きちんと説明をしてきていない単Pが多すぎるのです。

小林 港南台第一中学校の協議内容を通して、いじめ問題には「証拠」よりもまず子どもが安心して学校に通える環境づくりを優先する姿勢が重要であることを強く感じました。匿名相談窓口や日々の心の状態を把握するツールなど、多様な手段で子どものSOSを拾い上げようとする取組も印象的でした。学校・保護者・地域が互いに信頼し合い、同じ目線で子どもを支えていく体制づくりの大切さを改めて実感しました。

相馬 昨今、重大課題となっている「入会届」を10年前から導入している先進的な学校で、「任意参加」を強く、明確に打ち出している学校でした。また、3つの専門委員会も希望者が集まつた場合のみ活動する「やりたい人が企画して実行する」というスタイルは、多くのPTAが掲げる「無理の無い活動」の成功事例の一つだと思います。

八乙女 「やりたい人がやる」「やりたい人がいないなら活動しない」そんなPTA活動を実現している中学校の役員会議に参加させていただきました。今の時代や環境にあっていて、理想的だと感じました。また、会議の中でいじめに対してどのように対応していくかなどの話題も話し合われていて、先生と保護者がともに子どもたちのためにそれぞれ何ができるかを常に考えている様子が垣間見えました。





Sapporo City Parent-Teacher Association Council

札幌市PTA協議会

令和7年度札幌市PTA協議会国内研修報告書

発 行: 札幌市PTA協議会

発行日: 令和8年2月

編 集: 令和7年度札幌市PTA協議会国内研修団研修班

札幌市PTA協議会

〒063-0051

札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10

札幌市生涯学習総合センターちえりあ3F

